

保護者のみなさんへ

「がんばろう」

とうちゃん かあちゃん じいちゃん ばあちゃん  
ねえちゃん にいちゃん ……  
そして 子供たち

新型コロナウイルスが猛威を振るっています。連日、国内外から感染の広がりが伝えられ、身近に迫りくる恐怖を感じています。

子供たちは、集団登校時、前後の間隔を広めにとるなど、自分たちにできる感染予防に努めています。

その姿に健気さを感じます。

皆様方におかれましても、収束のめどが立たないことへの不安を抱かれています。特に、卒業や入学、受験や就職など人生の節目を迎えている子供をお持ちの保護者にとって、「なぜ今なの」とどうにもできないことが分かっていても腹立たしくもかしい、そんな気持ちでいらっしやることと思います。

また、この事態に遭遇して、人類の存亡が自然災害と感染症との闘いの歴史であったことをつくづく感じる次第です。

さて、感染拡大防止のため、学校を臨時休業としています。一方で、子供たちの学習の遅れや生活習慣の乱れを危惧しています。

すぐ解決のできないこのような時、「こういう時だからこそできることはないか」「こういう時しかできないことはないか」と心持ちを変えてみてはどうでしょうか。

私の出会いの中に、半年間、大病で絶対安静を余儀なくされた子供がいます。たしか当時六歳だったと思います。遊び盛りなので、両親は行動を制限するのに苦労していました。来る日も来る日も、お母さんが語る桃太郎や浦島太郎の昔話を聞いたり、プラモデル作りに熱中したりしていたと聞きました。ある日、お母

さんが言われました。「嘆いたり愚痴をこぼしたりしても仕方ありません。このつらい経験を良い方向に向けるだけです。」と、その時の表情は自分に言い聞かせておられるように私には映りました。それまで、哀れさだけに同情していた私は、自分自身を恥じました。この子は今、社会人として活躍しています。通常の生活とは大きく異なる此の間の生活が、彼の成長になんらかの影響をもたらしたことは間違いありません。

ふと昔のことが脳裏をよぎりましたので、紹介しました。

今だからこそできるものに没頭する。今、まさにそのような生活が、子供たちに求められているのではないのでしょうか。

此の難が、必ずや収束することを皆さんと祈りたいと思います。

「がんばろう」

とうちゃん かあちゃん じいちゃん ばあちゃん  
ねえちゃん にいちゃん ……  
そして 子供たち

令和二年四月十七日

海田町教育委員会

教育長 佐々木智彦